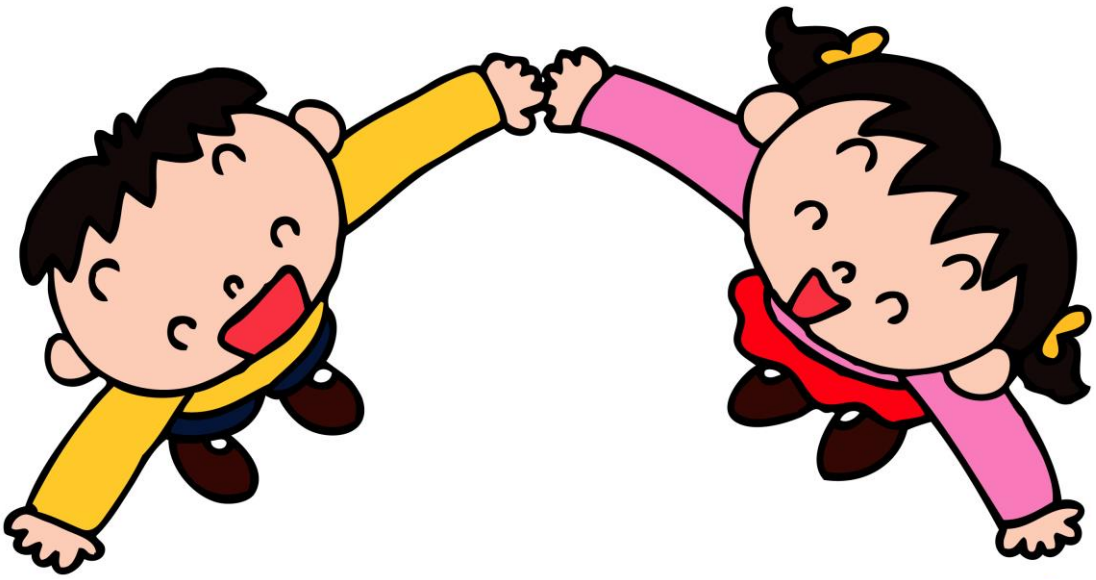
愛知の幼児教育　【平成２４・２５年度報告】

小学校教育を見通した幼児期の教育を考える

－接続期における教育課程・保育課程の編成に向けて－



愛知県幼児教育研究協議会

はじめに

幼稚園（保育所等も含む。以下同）と小学校との接続期を巡っては、教育システムが異なる二つの集団間を移行するには様々な困難が生じるため、子どもたちがうまく適応できるように丁寧な援助を行う必要がある、と考えられてきました。つまり、幼稚園と小学校が「異質な」集団であるということが、不適応を引き起こす大きな原因であると考えられてきたのです。

でも、本当にそうなのでしょうか。幼稚園と小学校は、子どもたちが自然に移行し、適応していくことが困難なほど質の異なった集団なのでしょうか。

幼稚園と小学校。どちらの教育も、個人の能力を伸ばし、自立的に生きる基礎を培い、社会の形成者としての資質を養うことを目的として行われています。遊びを通した総合的な教育と授業を介しての教科教育という方法論上の違いが両者を異質に見せてはいますが、どちらも発達を考慮しつつ、主体性を大切にし、個性を生かすことを目標とした教育です。教科相互のあるいは領域相互の関連を図り、全体として調和のとれた指導計画の下に教育が進められる点も同じです。

このように、幼稚園も小学校も本質的には「等質な」集団のはずなのです。

では、なぜ、集団間の移行がこれほど問題となっているのでしょうか。

それは、それぞれの集団構成員である保育者や教師が自らの教育を語る際、集団ごとに異なった言葉を使っていることによるのかもしれません。長い歴史の中で醸成されてきた教育概念や教育文化の違いが、それぞれの教育を語る言葉を異なったものにしているような気がします。

この違いは、教育という行為そのものをとらえる枠組みさえ異なったものにしている可能性もあります。そのため、異なった教育概念と文化をもつ相手集団（幼稚園にとっては小学校、小学校にとっては幼稚園）が異質な集団であるかのように見えてしまい、教育を語る言葉も、教育をとらえる枠組みすらも異なっているが故に、二つの集団が滑らかに接続することは非常に困難であると思い込んでしまっているのではないでしょうか。

本当は、教育の目的も、目標も、進め方もほとんど変わらず、ただ発達の特性に応じて、遊びを通して行われるか授業を介して行われるかの方法論上の違いに過ぎないはずなのに……。

もしそうなのだとしたら、接続期教育の問題点は「子ども」たちの適応力不足にあるのではなく、保育者や教師を中心とした「大人」達の適応力不足にこそあるということにならないでしょうか。

幼稚園・小学校それぞれの教育集団に属する保育者・教師が、自らの集団で自明のものとして使っている教育を語る言葉や枠組みを見つめ直し、同時に、相手集団が使っている言葉や枠組みを真摯に学び、自らの教育を相手集団の言葉や枠組みを使って捉え直してみることが、今、もっとも必要なことなのかもしれません。方法論に見られる異質性ばかりに目を奪われることなく、もっと柔軟でしなやかな視点から、教育集団としての互いの等質性を理解すること。そこからしか、滑らかな接続期教育は始まらないのではないかと思います。

接続期の問題を「子どもの適応力」だけで解決しようとしてもうまくはいきません。教師一人一人が、互いの教育システムを読み解き、幼稚園と小学校は共通の目的をもった等質な教育集団であるという認識の下、どちらでも通用する教育を実践できる柔軟性や、教育者としての普遍性を身につけることが求められています。

接続期教育の課題は、紛れもなく「大人（教師）の適応力」の課題でもあります。個々の保育者・教師が主体的に自らの教育観を見つめ直し、各々の教育力を高めていくことこそが、最も優れた解決策なのではないでしょうか。

２年の月日をかけ、多くの委員の努力によって生まれた本報告書が、自らの教育を問い直しつつ、接続期教育の在り方を考えていっていただく際の一助となることを切に願っています。

平成 26 年３月

愛知県幼児教育研究協議会

会長　山口 雅史

平成 24・25 年度　愛知県幼児教育研究協議会　報告

小学校教育を見通した幼児期の教育を考える

ー 接続期における教育課程・保育課程の編成に向けて ー

● はじめに

● 目次

アプローチカリキュラム編成の手引

理　論　編

Ⅰ 接続期における教育課程・保育課程について

1 アプローチカリキュラムとは何か・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

2 なぜ、アプローチカリキュラムが必要か・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
（1）接続における現状の問題点と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2～3
（2）幼保小の接続で大切と考えること・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

3 幼児の発達や学びとは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
（1）幼児の発達の状況の把握・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
（2）就学前の保育・子育てで大切にしたいこと・・・・・・・・・・・・・・ 6
（3）幼児の学びの捉え・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
（4）学びの芽生えを支える土台となる力・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8～10

4 幼児期に育てたい力を確認しよう ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
（1）アプローチ期に確認したい力　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
（2）児童期につなげる「三つの力」と「三つの自立」・・・・・・・・・・ 12
幼児期から児童期に育てたい力（概念図）・・・・・・・・・・・・・ 13～14
アプローチ期からスタート期へのつながり ・・・・・・・・・・・・・ 15～20

5 指導をつなげよう
（1）５歳児後期から１年生に向けての指導のポイント・・・・・・・・・・ 21～22
（2）特別な支援を必要とする幼児への指導のポイント・・・・・・・・・・ 23～24

【 資 料 】

1　スタートカリキュラムとは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
2　愛知県における幼児教育と小学校教育の連携・接続の取組について・・・・・・・・ 26
3　学びの芽生えの時期から自覚的な学びの時期への円滑な移行・・・・・・・・・・・・ 27
4　幼稚園教育要領・保育所保育指針で示されている
幼児期に育てたい心情・意欲・態度・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28～29

実　践　編

Ⅱ　遊びや生活の中の学び・育つ力　＜事例＞

１　小学校（スタート期）へのつながりを見通そう・・・・・・・・・・・　31

（１）スタート期につながる、アプローチ期の姿を押さえる・・・・・・・・　31

（２）アプローチ期に必要な体験を考える・・・・・・・・・・・・・・・・・　32

■ 幼保小のつながりを見通した実践例 ■

□ 小学校の生活を見通した実践・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33～34

□ 特別な支援が必要な幼児への実践　・・・・・・・・・・・・ 35～38

２　アプローチ期のカリキュラムを見直そう・・・・・・・・・　39

（１）「三つの力」を教育課程・保育課程から捉える・・・・・・・・・・・　39

（２）「三つの力」を育てる視点から指導計画を見直す・・・・・・・・・・　40

■「三つの力」を育てるための実践例 ■

□「生活する力」を育てる実践・・・・・・・・・・・・・・・・ 41～42

□「かかわる力」を育てる実践・・・・・・・・・・・・・・・・ 43～44

□「学ぶ力」を育てる実践・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45～46

□「三つの力」を総合的に育てる実践・・・・・・・・・・・・ 47～50

３　小学校や地域・家庭と連携した取組を工夫しよう

■ 小学校との交流を生かした実践例 ■・・・・・・・・・・・　51～52

■ 地域とのかかわりを生かした実践例 ■・・・・・・・・・・・　55～56

■ 家庭との連携を生かした実践例 ■・・・・・・・・・・・　57～60

【 資 料 】

幼稚園・保育所から小学校へつなぐ「三つの力」チェックシート・・・・・　61～68

● 幼児教育研究協議会研究のあゆみ　・・・・・・・・・・・・・・・・・　69

● 協議会・専門部会・事務局 名簿等　・・・・・・・・・・・・・・・・・ 70～71